

の7月28日～8月1日に、モンゴル早魃防止事業のため、当クラブ27名の参加。単独事業として第一回目（家族同伴）

- 7、同年度6月12日～6月15日に、会長・幹事・財団委員長を含め、4名で第二回目の訪問。
- 8、栗原憲司年度（平成25年7月～平成26年6月）の6月13日～6月16日に、会長・幹事を含む6名にて第三回目の訪問をしましたが、同時に、マッチンググラウンド制度実施による3カ年間の1年目に当たります。
- 9、この第三回目の訪問中の6月14日に、関係機関（フレRC・フォレスターNGO）と当クラブ（6名）とのレセプションを実施しました。
※その際の会合内容は、事務局の方に記録として残されています。

今申し上げた流れの中で、今年が最終年度の訪問となりました。最初の2年間はマッチンググラウンドが進まず、当クラブが単独で援助を行っておりましたので、当初からこの案件にかかわってこられた方々には心より御礼申し上げます。

結論から申し上げます。このプロジェクト『「ホリモグ（混合）・森』』は現在進行形ではありますが、順調に推移していると思えますし、またモンゴルの関係部署の方々からも、多くの感謝のお言葉をいただいております。現状については、是非、回覧物に目を通してその進行状況を感じていただきたいと思えます。また今回の視察には、当クラブの米山奨学生であった、ジグジット・タミラ君が、自分の仕事がある中、三日間付きっきりで同行し、多分現地の添乗員でもかなわないような人々や場所への案内をしてくれました。二日目の現地視察後の夜には、フレロータリークラブ現会長であって、新モンゴル学園理事長ジャンチブ・ガルバドラツハ氏を始め前年会長、NGO前会長ご夫妻と現会長（タミラ君のお母様）、農産大学オユン教授ご夫妻との食事会を設営、翌日には新モンゴル高専の校長シルネン・ブヤンジャルガル校長の案内で、新モンゴル学園の小・中・高一貫教育の場である学園内を見学させていただきました。その見学の最中、非常に驚いたことは、日本語が当たり前のように廊下や教室の至る所に、我々で言えば報告書やレポート、そうしたものにあふれているのです。本

当に驚きました。聞いた所、新モンゴル高校の学園長とは、山形のロータリークラブで若い時にお世話になったそうです。その時になんとかモンゴルに行つて日本と同じような教育を受けさせたいということで、その15年後に学校を設立したということです。設立した際の協力者はほとんど日本人です。今でもその写真が飾られておりました。そしてもちろんその写真に写っている方は大口の方だろうと思うのですが、その下にも日本人の協力者の名前の一覧が、今でもきちんと貼ってありました。これは素晴らしいと思えました。

この高専（高等専門学校）を担当している方が成田ロータリークラブの出身だそうで、つい2年前まで日本で仕事をしていたそうです。そしてこちらの学園長にお誘いを頂いて、こちらの高専に来たということでしたが、この方は本当にお話が熱くて驚きました。日本に対する思いや、これからのモンゴルをどうやって発展させていくのか、そして発展させていった上には、日本とどのくらい緊密な関係がつかれるのか、本当に日本という国で奨学生になったことを、心より感謝しております。私達にもそのお話を相当熱く語って頂きました。

その夜には、現在はモンゴル国の 鉱山省大臣 前駐日大使であったタミラ君のお父様でありますレンチェンド・ジグジット大臣が、公務があつて多忙な中なんとかご都合を合わせて、この席に来て下さいました。その席でも、狭山中央ロータリーに関する感謝の言葉があり、今後のモンゴルをどうしていくのかという話があり、そしてその席に午前中に訪問した新モンゴル高専の校長シルネン・ブヤンジャルガル校長も来てくださりまして、やはり同じようなお話をしておりました。私にとってみれば、本当に申し訳ないのですが、当初はさほど関わりが無かったものですから、これほど熱くこの時間を過ごせるとは思っていなかったのですが、現実問題行ってみましたら、4年後の国の変わり様とそれに関わっている人たちの熱き想いを目の当たりにして、逆に私はロータリアンとして少し恥ずかしい思いがありました。お言葉を聞いていても、これほど物事にかかる思いが強いものなのかと、少し大げさなかも知れませんが、私が知る

日本の歴史の、明治維新の時の日本人の考え方の
ように、今のモンゴルの主要をなしている先生方、
中心になっていらっしゃる方の思いを感じ取った
次第でございます。是非とも、私を含めまして、安
穏と暮らしている我々がもう少し自分の国を見直
しても良いのではということも感じとって帰って
きました。

今日は私の話はこれくらいにさせていただきますが、
是非とも回覧物を閲覧頂きまして、新モンゴル学
園の学校案内は日本語になっておりますので、よ
く見ておいて下さい。そして米山奨学生の中の、学
友会の中の左から 2 番目の人は、今度日本を担当
する国の政治に関わっている方だそうです。若い
女性の方ですが、それも少し目を通して頂けると
嬉しく思います。

幹事報告

小島幹事

1. 2016-2017 年度米山記念奨学部門セミナーの
お知らせについて。
2. 地区より「出席委員会」名の改称、当クラブは
「出席向上委員会」に変更致しました。
3. 地区より、東京麹町 RC クラブ 50 周年記念事
業として発行した「思い出草」の配布について。
4. 高校生社会体験活動支援委員会より、ご協力の
お願い(就労体験の受け入れ事業所再募集)
5. 受贈会報 所沢 RC 所沢東 RC 所沢東 RC
6. 回覧物 難民を助ける会 AAR ニュース 6月号

米山奨学生

ホロワさん

皆さんこんにちは。先日の例会も参加させて頂き
ましたので、お会いしていると思います。先ほどモ
ンゴルについてお話がありましたが、日本で私の
の研究についてお話させていただきます。

私は今大東文化大学のアジア地域研究科で牧畜
民の研究をしています。1990 年から 2015 年まで
の中国の改革開放からの環境問題、そして牧畜民
の減少について研究をしようと思っています。
6/27 から 9/2 までに内モンゴルとモンゴルに行っ
て現地調査を行います。宜しくお願い致します。

「外来卓話」・・・・・・・・

【変化するロータリー】

国際ロータリー第 2570 地区

パストガバナー 石川 嘉彦 様



御紹介を頂きました入間ロータリークラブの
石川嘉彦でございます。

先ほどから会長の時間の中で、モンゴルとの素
晴らしい関わり、出来事を皆さんがお作りになっ
たと聞き、これはクラブ例会だけでの報告ではも
ったいないと今思っておりました。是非地区でも
何かの機会に、この植樹のマッチンググラウンドの
報告、そして経過を話されたら良いかと思えます。
そして他のクラブとの協力も得ながら、2570 地区
としてモンゴルと深く関わっていけたら良いなど
強く思っていたところでございます。

私、立場上どうしてもこうした所に立ちますと、
ロータリーの話から始めなければならないのです
が、しかし今日はロータリーの話もさせていただきます
が、後半はあまり堅苦しい話ではなく、プライベ
ートな体験、これもロータリーのプログラム中の
体験でございますから、全く関係がないとは言え
ないのですが、そんな話をさせて頂ければ退屈し
のぎになるのではと思いプランを立ててきました。
皆さん既にロータリーについてはご存知だと思
うのですが、依頼をお受けした時に、入会してまだ浅
い方もいらっしゃるということで、ロータリーの
基本的な部分に触れてもらえないかというご依頼
を頂きました。ロータリーのことを語ると、ロータ
リーとは大変奥行きが深く、たくさんプログラム
があります。そして手続要覧がありまして、それ
に基づいてルールブックがございます。様々なプロ

グラムや規約があるわけですが、今日はそのことについて触れるつもりはございません。しかしロータリークラブとは、1905年2月23日、ポールハリスが3人の仲間と一緒に会合を持ったのがシカゴロータリークラブの第一回の例会でした。そこからロータリーの歴史が始まったわけです。

ロータリーとは今も申し上げたように、手続要覧等色々なルールがございます。国際ロータリーがあって、ゾーンがあって、地区がある、そしてその地区の中にクラブがあり、地区には地区の方針があると、とにかく入り組んでおります。しかし一番基本となることは、非常に簡単に【Fellowship】 and 【Service】、この二つです。

ロータリーの元々の基本、【Fellowship】は日本語に訳す時に親睦と訳しておりますが、親睦ではなく「友達をつくる、友達を増やす、友達を大切に、友達の立場にたって物を考える」ということです。そして【Service】はその通りで良いと思うのですが、Serviceにも色々な種類があって、例えば地域に対する奉仕、国際社会に対する奉仕、そして一番大切なのは自分の職業を通した奉仕です。自分の職業をきちんとし、良い製品を作り、しかも安く、もちろん利益を追求しますが、良い商品を作って販売するという事は、今更申し上げるまでもありませんが、奉仕の基本です。そのため、とにかく集約しますと、【Fellowship】 and 【Service】と考えて良いと思います。

1905年のお話を先ほど致しましたので、まずはロータリーの黎明期についてお話したいと思えます。ポールハリスやその時の仲間の名前も皆さんご存知でしょう。しかしその後例会が何度か重なっていくうちにだんだん人が増えていきます。その評判はどこでそれほど広がったのか、シカゴとは当時荒廃していて、麻薬や飲酒、雇用や景気的不安定等があったわけですが、事業家はそういった社会でそれぞれ孤独だったのです。そして、ロータリークラブというものが始まったらしいと聞いた経営者たちは、仲間に入りたいとだんだん増えていったのです。その中で1908年、会が始まって3年目に、フレデリック・シェルドンという人が入会に誘われます。ところがシェルドンは、「皆さんこれまで自分達の商売のことと、友達を作る事しか

考えていないのではないか。そうした自分の利益を追求しているクラブに僕は入りたくない」と、こう言ったのです。ではどうしたら良いのかと聞くと、シェルトンは「誰かの役に立つための行動をしなければ、このクラブは廃れてしまう」と言いました。これがロータリーの黎明期です。3年経ってこのような人が入会してくるのです。

フレデリック・シェルドンはある時の大会スピーチで「He profit most who serve best」という言葉を使いました。誰かに奉仕する者こそ報われる、確かにその通りだと思います。そしてこれがだんだんとロータリーの基本となってきます。

その事を理解する人たちが、益々増えてきます。そうしますと、もちろん自分達の利益がなかったら、あるいは友達が増えていかなかったら、クラブに入っても面白くない、そうした人が出てきます。これはついですが、1910年にはチェスリー・ペリーという人が入会してきます。チェスリー・ペリーとポールハリスは非常に懇意になるのです。チェスリー・ペリーは特にロータリーに大きいテーマや大きな功績を遺した訳ではないのですが、ポールハリスの女房役、事務総長ということで、例会に関わる色々なことの設営の全てをポールハリスに代わって行いました。なんと33年間も事務総長をしていたのです。この人の名前も覚えて頂ければと思います。

もう一つ、1911年にポートランドで国際大会が開かれました。この頃になると国際大会が開かれる程、アメリカの中でも相当な数のロータリアンが増えてきました。その国際大会の時に、ベンジャミン・コリンズという方がスピーチを致しましたが、そのスピーチの中でこのような言葉を使いました。「Service not self」…自分でない奉仕…それがだんだんと変化していきまして、今我々は「Service above self」…超我の奉仕…と使っております。最も奉仕する者は最も多く報われるという標語と超我の奉仕、この2つが今底流となっているのです。この黎明期の基本的な考えは未だに変っておりません。今日はロータリーが非常に変化しているということをお話したくて、変化するロータリーという題名にさせて頂いたのですが、この底流になっている基本理念は、今でも全く変

わりません。これがやはりロータリーを支えている原点かと思います。

昔はロタキチという言葉をよく使いましたが、ご存知でしょうかロータリー気遣いという意味で、ロータリーになるとのめり込んでしまって、何も他のことを考えず、ロータリーの事ばかり話すという方が多くいらっしゃったのです。今は言葉だけ残っていますが、そうした方はほとんどいらっしゃいません。敢えて言いますと、ガバナー経験者などはその口でしょうか、どうしても頭の中から離れないのです。しかしこれは一年間務めますから仕方がないかと思います。

少し先に進みますが、1923年、ロータリーができてから18年後に規定審議会がありまして、制定案23-34、23というのは、1923年の規定審議会という意味で23がつくのですが、23年の34条が制定されました。これはどういう事かと言いますと、今まで申し上げていたサービスとは職業奉仕が中心だったのですが、23-34で初めて社会奉仕ということが正式に手続要覧に載ることとなりまして、ロータリークラブは社会奉仕をする、しかもクラブのレベルや地区のレベルではなく、個人個人それぞれが自分の地域のための社会奉仕をするとなります。この条文は後程会長さんにお渡ししますが、長文で読むのが大変です。要約しますと、ロータリーの綱領は、ロータリーはこうするべきだということ、もう一つは社会奉仕を公にすることが大きな出来事です。

しかしこの23-34、実は2007年の規定審議会で手続要覧から消されてしまい、過去のものになってしまいました。しかし今はロータリーの目的、「The Object of Rotary」で全面に出ております。そのことについて今日は説明致しませんので、皆さんに手続要覧等で調べて頂ければ結構だと思います。

この時に社会奉仕が認知されて、世界でロータリークラブが初めて、成長したと公に認められるようになるのです。社会奉仕をするクラブ、協会等沢山ありますが、それ以来ロータリーとは非常に格調高い、世界に認められる存在となりました。そのような背景があるのですが、とにかく我々はクラブにすることが一番楽しいのです。今まで申

し上げた黎明期の綱領や基本理念は良いのですが、我々がここに集まってくる一番の目的は、今日も友達に会える、これが基本です。今日も友達と話ができる、友情とは人間には絶対に無くてはならないものなのです。友達のいない人生は考えられません、友人がいるからこそ話ができるし活動ができる、積極的にもなれる、そして楽しく、商売のヒントにもなるということで、友達、友人が一番大切です。自分の所属しているクラブに出ることが非常に楽しみである、これがロータリーの一番大切なことかと思っております。

そしてもう一つ、変化するロータリーということで少しお話させていただきますが、実は2003年、2010年ごろまでに財団も、米山も色々なプログラムも相当変わってきており、嘆かわしいこともあるのです。例えば一業種一人と決まっていたものが、2010年には一業種五人まで等となったことや、そして2010年の規定審議会では、入会資格というのが、職業人、専門職でなくても良いという事になりました。今までは専門職、或いは事業家で業務判断ができる立場にある方、しかも地元で同じ業種なら一番評判の良い方となっていたのですが、これが御破算となってしまったのです。そして2016年には更に会員規約が緩和されまして、もちろん今までの事業職、専門職の方々が中心なのですが、職業は無くてよいので地域に貢献を下さる方々を是非お誘いしましょうということが決まりました。これは決して嫌がる事ではなく、そうすることによってお誘いする方の幅が広がってきますので、大歓迎なのですが、しかしロータリアンとは少しプライム、何と言いましょか、気取り屋さんが昔から多くて、クラブに入るにはやはり自分達が本当に入ってもらいたい人に、地元で活躍している人に入ってもらいたいという声もありました。

2016年の規定審議会で大きく変わった事の2つ目は、この例会、我々例会と言いますと、1905年から毎週例会を開いておりました。ところが月に2回例会を開けば良いと可決してしまったのです。しかしこれは我々のクラブの解釈なのです。国際ロータリーはそう決めたけれど、狭山中央は毎週例会を行うと皆さんが決めれば、皆さんのクラブ

の会則にそう書けばよいのであって、2回しかやっ
てはいけないわけではありません。やはり毎週会
えた方が楽しいですし、私のクラブでは毎週と主
張しようと思っております。

3つ目、これは大きな変化です。今までロータリ
ーに入会する際には入会金を頂戴しておりました。
日本人のクラブで入会金を払うということは、あ
まりありませんので、入会金を払えというのは、少
し気取りすぎているのかも知れません。国際ロー
タリーでは入会金という言葉は使わない、無とい
う事になりました。しかし我々入会金という言葉
は使わないとしても、入会してお誘いする方には、
実は我々には基金があって、今まで皆が一生懸命
貯めたお金があるから、入会する時に少し基金に
協力してくれないかと話せば、入会金という言葉
ではなくとも良いと思います。そのような知恵も
働かせていきたいと思えます。

もう一つの大きな出来事として、人頭分担金
(Per Capita Due)、今年間 56 ドルだったと思
います。それが 2017-2018 年には年間で 60 ドル、そ
の後毎年 4 ドルずつ値上げをしていくというこ
なのです。国際ロータリーの財政が不安になっ
てしまったという理由なのですが、この数字はあま
りまともに信じていないのですが、財政が悪くな
ったならば他で儉約すれば良い話で、我々からお
金を取らなくても良いのではないかという気も致
します。しかしそれが決まりました。こればかりは
決まったことですので仕方ありませんが、来年
から年間 60 ドル払うという事になりました。これ
が 4 つの大きな変化です。ロータリーについてお
話したいことはもっと山ほどあるのですが、しか
しあまりこのような話をしても面白くありませ
ないので、少し話題を変えて、雑談をさせて頂
きたいと思えます。

今お手元にアメリカの地図をお配り致しました。
実はロータリー財団に GSE (Group Study
Exchange) というプログラムがございましたが、
なくなりました。その代り、VTT (Vocational
Training Team) というものができましたが、全く
質が違いますので、今はこのお話には触れませ
ん。GSE (Group Study Exchange) …グループの研究
効果…これはどういう事かと言いますと、1人のロ

ータリアンがチームリーダーとなって 4 人の社会
人を募集し、4 週間地区と地区で交換するというプ
ログラムなのです。私は 1999 年、まだ入間クラブ
では会長もしていない駆け出しだったのですが、
いくらか英語ができましたので参加してみたらと
いうことで、この GSE のチームリーダーという大
役を仰せつかりました。7630 地区、米国デラウ
ェア州とメリーランド州の一部、お手元の地図を見
て頂きたいのですが、私が行った 7630 地区とはニ
ューヨークとワシントンの間にデラマーバとい
う小さな半島です。ここに行った時の話を少しさ
せて頂きます。

この GSE の話は今まで公式訪問等で話したこ
とはございません。なぜならこれは唯の体験です
し、GSE というプログラムもなくなってしまいま
したのでお話をしても仕方ないと諦めておしま
した。しかし今日はたまたま親しい皆さんとお目
にかかれましたので、お許しを頂きまして、個人
的な話をさせていただきます。

このデラウェア州とは、法人を作るのに非常に
便利な州として有名です。アメリカの 60%位の
大手の会社がデラウェアで設立をしております。
法人の設立登記の手続きが大変簡単なのです。そ
のため皆ここへ来て設立し、本店をここに
してニューヨークやワシントン等で活躍している
会社が沢山あります。特にクレジットカードの
会社はほとんどここが本店です。これがデラ
ウェアの特長となります。

もう一つデラウェア州の特長は、今から 250
年位前に独立戦争でアメリカは州になります。
アメリカという国は、たった 450 年前にコロン
ブスが発見したのですから、若い国なのです。
そして 250 年前に初めて国家になったので、
我々日本と比べると本当に駆け出しの国だ
と思うのですが、でも大きいのです。その合
衆国になった時に、第一番目に州を宣言した
のがデラウェア州です。そのためデラウェア
州の人たちは First State ということ
で誇りに思っております。今 50 州ですが、
当時は 45 ~ 46 州、その時に 1 番目の
州を名乗り出たのがデラウェア州で、そ
れがデラウェア州の人々の自慢です。その
デラウェア州に行きまして、最初ウィル
ミントンという所へ 5 人で訪問致しまし
た。我々

制服を作って頂きまして、4週間の間に、4家族のホームステイをさせて頂きました。その最初がウィルミントン、これはパストガバナー、カローザスという方の自宅に泊めて頂きました。カローザスというお名前を聞いたことがあるかと思うのですが、ナイロンの発明者がカローザスという方なのです。私はその方の所に行った時に、家の家業が絹糸だったものですから、あなたの先祖が発明したナイロンのお陰で潰れたと文句を言いました。そんな冗談を言いながらとても楽しい1週間を過ごしました。

ここにはデュポンという会社がございます。超マンモス企業でして、皆さんご存知でしょうが、デュポンがなぜ発展したか、アメリカに来て始めたことが、黒色火薬、ダイナマイトの製造だったからです。アメリカは西へ開発していきます。道路も作らなければならない、山も壊さなければならない、平地も作らなければならない、絶対にダイナマイトが必要ですから、とにかく売れて売れて、このデュポンの資産は半端なものではありません。デラウェア州に行きますとデュポンの豪邸があるのですが、そこへ案内してもらったり、現在ダイナマイトは他の州で作っておりますので、繊維だけの工場だけになっておりますが、とにかくデュポンというと凄いのです。ウィルミントンにはデュポンの経営しているホテルがありまして、我々訪問した最初の一晩だけそこへ泊まらせてもらいました。これも豪華なホテルでした。最初にウィルミントンにステイし、カローザスの家にステイと思い出が沢山あります。

次にドーバー空軍基地を訪問致しました。ウィルミントンから少し南にずれたところにあるのですが、これは素晴らしい空軍基地でして、ここには輸送機のシミュレーターがございました。本当は入ってはいけないのですが、我々5人が招待されて、シミュレーションの操縦をさせてもらうという体験を致しました。

第二ホストへ移ります。そこはもう少し南の老牧師の家庭でした。とても穏やかな家庭でして、ウィルミントンから少し郊外でしたら、毎朝庭にリスが来るのです。そのおじいさんはリスにひまわりの種をあげるのが趣味でして、とても穏やか

な家庭で、アメリカとはもったぎすぎすしていると思っていたら、こんなに豊かなゆったりした所があるのだなと思った印象がございます。

朝昼晩と食事をごちそうになるのですが、牧師の家ですので必ず食前にお祈りを致します。実は私はクリスチャンですので抵抗はないのですが、何日目かに私がお祈りをする番になってしまったのです。英語でお祈りをしたことはないので非常に苦労した経験がございます。しかしとても素晴らしい家庭でした。

3軒目にお邪魔した時には、今イチローがマイアミマリナーズで活躍しておりますが、アメリカは野球が本当に凄いです。メジャーリーグは、ナショナルリーグ、アメリカンリーグでそれぞれ15チームずつの30チーム、その他にマイナーリーグというものがありまして、恐らく50チームくらいあると思います。そのマイナーリーグの球場のオーナーがホストでして、球場へ連れて行ってもらい、ペプシコーラのスポンサーでしたので、ボックスがあり、色々なものを食べながら観戦ができました。我々が日本から行ったという事で、仲間の一人が始球式をさせて頂いたほどの経験がございます。とても楽しい経験でした。

失敗談もございまして、次の日に、昨日の野球はどうだったかとテレビの取材があったのです。私は良い調子になって、楽しかったと、日本ではどうだという質問でしたので、日本では12球団しかないけれども、よくコカコーラを飲みながら野球を見ると言ったのです。しかしこれが大失言でして、なぜならペプシコーラの球場だったのです。それを新聞に書かれてしまうという、そんな失敗も致しました。

まだまだ失敗はあるのですが、まとめに一つ、あるロータリアンが、自分のクラブの長老が病気になったので、お見舞いに行きました。そうしましたら、「君も医者だからわかるだろう、僕はもう余命間もないのだ。お見舞いありがとう。大丈夫だから心配しないで。僕が亡くなったら天国のロータリークラブに入るから心配しないで良いよ。」と言ったそうです。その人はびっくりしたそうですが、まだあるのです。「君は天国のロータリークラブの入会資格を知っているかい？亡くなるまでこのクラ

ブに所属していなければいけないのだよ。」と言われたと聞きました。それを聞いた瞬間、私はどうして良いかわからなくなりました。

さあどうしましょうか。そんなことで話を終わらせて頂きたいと思います。ご静聴ありがとうございました。

ニコニコボックス

石川嘉彦様 今日はお世話になります。

江原君 本日は、国際ロータリー第 2570 地区パストガバナーでいらっしゃる石川嘉彦様に本日の外来卓話をお願いしております。お忙しい中お引き受け下さいまして本当にありがとうございます。後ほどのお話し何卒宜しくお願い致します、また先週末から三泊四日でモンゴル国に行つて参りました。四年前に行った時との違いに驚いております。皆様、是非モンゴル国に行つてみてください！

小島君 国際ロータリー第 2570 地区 2007～2008 パストガバナー石川嘉彦様ようこそお出で頂きました。お話し楽しみにして参りました。勉強させていただきます。

浜野君 国際ロータリー第 2570 地区パストガバナー石川嘉彦様ようこそお越し下さいました。卓話楽しみにして参りました、宜しくお話し致します。米山奨学生ホロワさんようこそ。

稲見君 石川パストガバナーようこそお出で下さいました。今日の卓話楽しみにして参ります。モンゴルに行かれた 8 人の皆様お疲れ様でした。ありがとうございました。

栗原(憲)君 例会を休みました。

栗原(成)君 石川パストガバナー本日の卓話宜しくお願い致します。昨日モンゴルから帰りました、シベリア松など順調に育っていました。日本人墓地にも 50 本植えたそうです。

益子君 石川パストガバナー本日の卓話楽しみです。よろしくお話し致します。

宮野君 石川パストガバナーいつもお世話になります。本日は卓話楽しみにして参ります。

小幡君 石川パストガバナーようこそ当クラブへおいで下さいました。ご指導よろしくお話し致します。

小澤君 石川パストガバナー、お忙しいところ御来駕頂きありがとうございます。卓話よろしくお話し致します。

佐藤君 国際ロータリー第 2570 地区パストガバナー石川嘉彦様ようこそお出で下さいました。本日は勉強させていただきます。

会員誕生祝 小島君 守屋君

夫人誕生祝 東君

結婚記念日 東君 小澤君

※次の例会 6月21日(火) 18時30分～ 於：狭山東武サロン

江原年度 慰労家族同伴夜間例会

※次の例会 第2副 SAA 沼崎君 小幡君

6月28日(火) 12:30～13:30

クラブ協議会 退任あいさつ